

JRRN 会員アンケート 集計結果 及び 今後の取り組み

2011年3月24日(木)

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

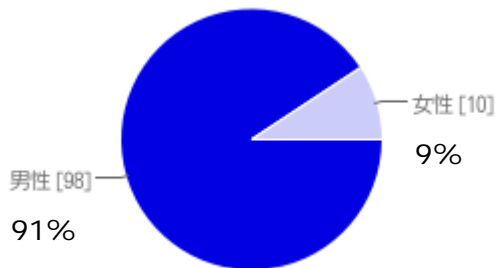
◆アンケート実施期間： 2011年2月10日(木)～21日(月)

◆回答者総数： 108名

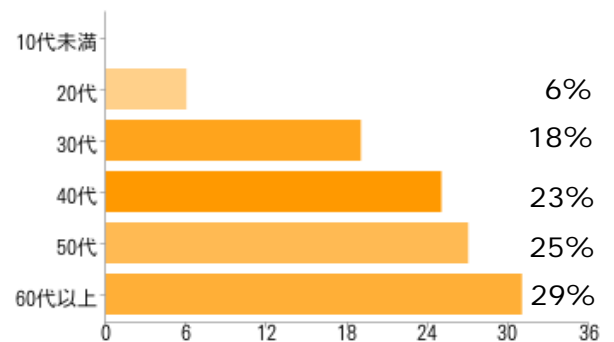
1. 集計結果

【1】回答者の属性及び関心について

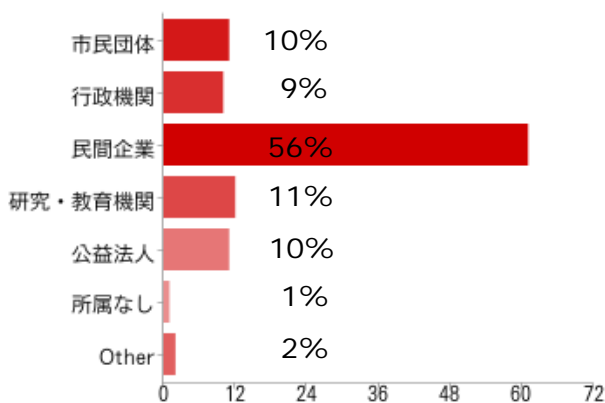
Q1: 性別



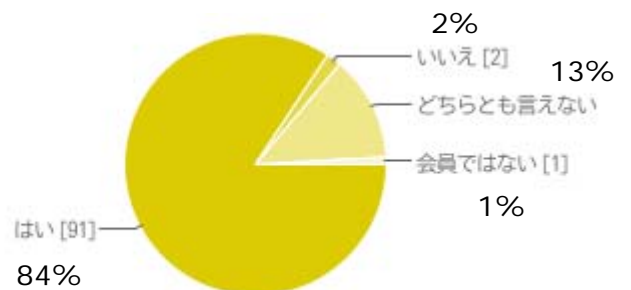
Q2: 年齢構成



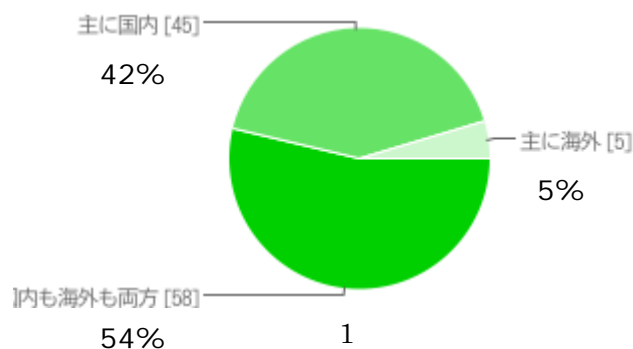
Q3: 所属



Q4: 会員になって役立ったことはありますか?



Q5: 国内情報と海外情報のどちらに関心がありますか?



【2】JRRN ニュースメールについて（週二回配信）

Q6: ニュースメールはご覧になっていますか？

1日ごと目を通す [60]

55%

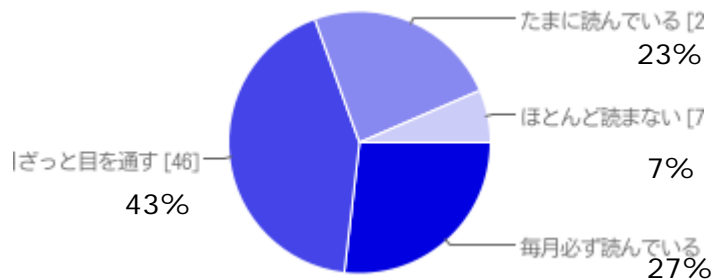


Q7: ニュースメールへのご意見をお聞かせ下さい

- ・週2回は多すぎるような気がします。ニュース以外はほとんど同じ情報になりますので、週1回で十分です。他分野（例えば、地理、歴史、教育、福祉、医療等々）で河川水辺に関わるニュースなり論文なりも把握したいので、せめてそれらの分野の専門雑誌で関連する特集号などが紹介されると有り難いです。
- ・ニュースなので、そのときの時事をおっていただければいいかと思えます。ただ、官公庁からの記者発表も含めてくれるとよいかも。「JRRNはNLを通して官民をつなぎます！」
- ・現状で満足しています。
- ・読む側として、週に1回程度の配信を希望します。内容がそれほど変わらないのにも関わらず、全文目を通すのは苦痛です。
- ・今の程度の頻度、情報量で良いですが、それ以下にならないように希望します。
- ・催し等の開催日時をできるだけ早めに掲示してほしい。
- ・ニュースは、週1回程度でよいのでは？
- ・メールはフロー情報のため、どこかHP等でストックしていただきたいです。貴重なデータベースになるはずですが。
- ・川に人が関心を持ったらどんな良いことがあるのか、河川数での耕作などがあれば水難事故防止に役立つか？
- ・十分満足しています
- ・河川水辺もふくめて、各種のデータベースの情報も随時提供していただきたい。
- ・単に知識として知りたいだけですが、一般紙等で読むことの出来ない情報で、公開可能な情報を送信していただけると有りがたいです。特に、海外の河川、湖沼等や、水問題は興味があります。
- ・韓国や台湾だけでなく、欧米や他のアジア諸国の事例も情報発信してほしい。
- ・ざっと表題を流して読んで、興味があれば内容を当ります。情報量としては多いが苦にはなりません。他の川の市民団体の動きを、テーマに合わせて特集などしてくれると嬉しい。例えば、「クリーンアップ」「外来魚」「川の汚染」など。また、海外の河川法など法律的な河川管理の具体例も知りたい
- ・河川環境に関する情報として有効と考えています。現状で満足しています。今後の継続をお願い致します。
- ・環境事業に対する国の補助 etc
- ・個別の川の実態 護岸工事状況 堰・ダムの数と状況 河川域の工業排水
- ・講演会、シンポジウム等の開催情報
- ・海外の水環境情報、関連機関の水環境情報
- ・全国の自然再生協議会事務局が出した記者発表（新聞記事に取り上げられないこともあるので）
- ・頻度はこのぐらいが適当ではないかと思えます。多くするとニュース発行が目的となってしまいますし、少ないと読まなくなります。内容につきましては満足しています。余計にごちゃごちゃ書いておらず自分の欲しい情報のみにアクセスできる形式には好感が持てます。
- ・個人で全国の情報を入手するのは非常に困難です。国内の最新情報がまとめられているので我々の活動に大いに参考になっています。
- ・頻度、情報量ともに満足しています。
- ・海外での行事、学会発表等に関する情報については、簡単な和訳があると助かります。
- ・関連するマスコミ情報、記事や番組など
- ・情報量が多いので全てを見るのが少々辛いです。おのずと、飛ばし読みになってしまい、せっかくの情報ももったいない気もしています。
- ・従来通りで十分。
- ・いつも拝見しております。ニュースの項目で興味のある箇所を参考にさせていただいております。日本国内でこのような情報提供は他に無く重宝しております。
- ・頻度が少々多すぎる。
- ・ニュースメールの頻度が高すぎる。週に一度で十分。既報のニュースと新報とを区分して欲しい。何度も同じタイトルを見るのは苦痛。
- ・子供エコクラブで水生昆虫観察会を12年開催しておりますが、活動資金がなく、これまでの観察記録のパンフレットを作成する予定ですが、補助金などの制度をご紹介いただけると幸いです。
- ・週2回の定期配信以外に、研修会、イベント等の開催に合わせたテンポラリーな情報配信があればよいです。また、全国で事業展開されている河川自然再生事業について、各現場での計画、実施、モニタリング結果、課題等を定期配信していただければ、助かります。
- ・今週のイベント（講習会・セミナー・研究会・発表会・その他）として、日時と、場所、主催、名称のみの項目・紹介欄があれば、迅速なスケジュール・アップに助かります。
- ・頻度は、2週間に1回位がいいです。情報量は現状程度がいいです。

【3】JRRN ニュースレターについて（毎月発行）

Q8: ニュースレターはご覧になっていますか？

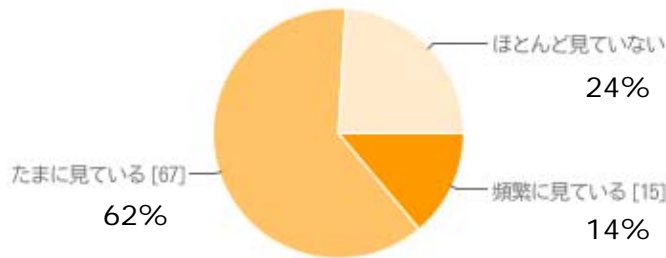


Q9: ニュースレターへのご意見をお聞かせ下さい

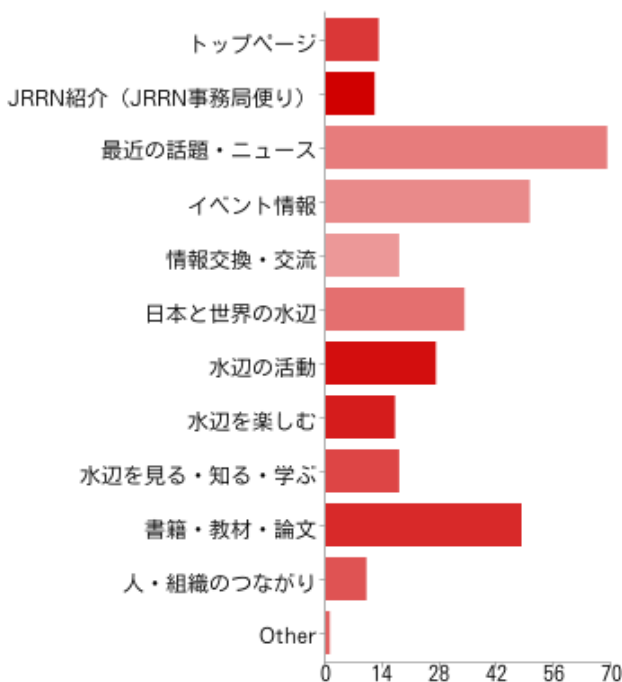
- ・何か企画物の連載があっても良いかと思えます。
- ・河川紹介記事があると良い、「あのときの川は今？」みたいなものがあると良い。例えば、かつてのふるさとの川整備事業箇所、かつて誉められたものでも、最新の河川整備から見れば、あり得ない工法なども多いと思います。しかし、時間が経過し、土砂堆積等で以外に今現在見ても良い環境でした。という事例を毎月1事例ほど、河川管理者に紹介いただく。
- ・海外河川にどのような関心を寄せているか、知りたく思います。
- ・メールニュースとニュースレターの違いに気づきませんでした。
- ・全国の水辺のボランティア活動などの、リアルタイム（団体の概要版など）情報・話題など。
- ・関連機関や外部の機関で、読みごたえのあるニュース、新鮮なニュース、読んでも面白くなくてもよいですが重要なニュース等。
- ・韓国や台湾だけでなく、欧米や他のアジア諸国の事例も情報発信してほしい。
- ・ざっと表題を流して読んで、興味があれば内容を当ります。情報量としては多いが苦にはなりません。
- ・海外の水環境情報、関連機関の水環境情報
- ・各地で自然再生事業を進めている者の生の声（ホンネ含め）をリレー形式で連載しても面白いかも。
- ・その存在を知りませんでした。
- ・河川に関する調査・研究のトピックス。
- ・雨水を利用した水循環
- ・海外の（後進国も含めて）河川整備や河川とのかかわりに関する情報をもう少し知りたい。

【4】JRRN ホームページについて（週二回程度更新）

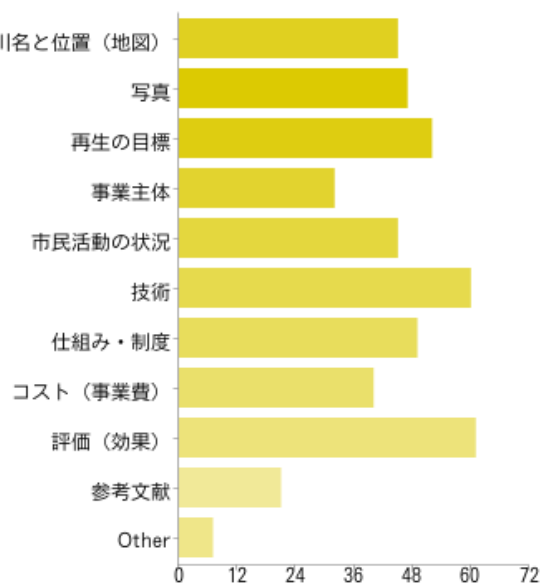
Q10: JRRN ホームページはご覧になっていますか？



Q11: ホームページで役立っているページは？



Q12: 河川再生事例から知りたい情報は？

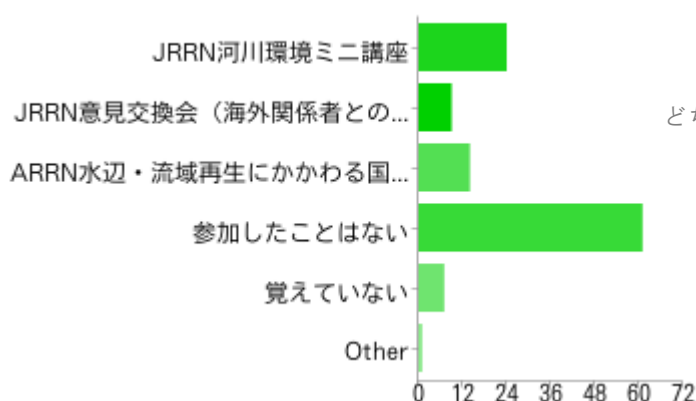


Q13: ホームページへのご意見をお聞かせ下さい

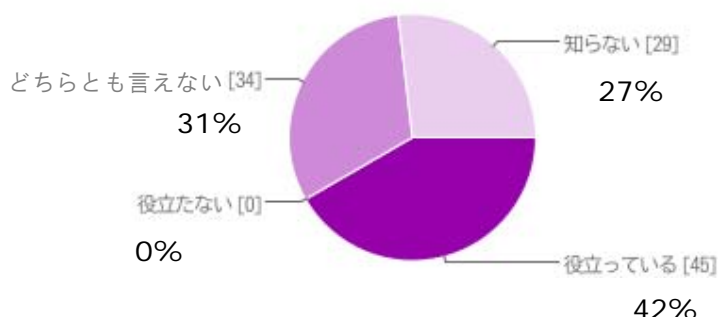
- ・他分野（例えば、地理、歴史、教育、福祉、医療等々）で河川水辺に関わるニュースなり論文なりも把握したいので、せめてそれらの分野の専門雑誌で関連する特集号などが紹介されると有り難いです。もっと会員相互の交流が深められるような頁があっても良いと思います。
- ・事例の更新、掲載数を充実させてほしい
- ・どこに何が記載しているのかわかりずらく、また情報がだいぶ蓄積しているので整理が必要な時期ではないかと思う。
- ・事例紹介等に対し、BBS方式でみんなの意見を書き込めるようにしてはいかがでしょうか？
- ・今の所、ない。
- ・水害事例などの技術的な分析（当局の言い訳でも、市民運動からの問題点ばかり指摘でもなく）
- ・全国の自然再生の協議会や委員会の開催（予定）。（一覧にしたものがないのでいちいち各HPをチェックしていくのが大変なので・・・）。
- ・国内外の環境研修、環境学習等の取り組みに関する情報。
- ・各国、特に後進国の河川の利用実態や課題等を知りたい。
- ・特にありません。現状の情報で満足しています。
- ・1. 流域内の市町村の名前・人口、2. 各河川の堤防に最も近い鉄道の駅名と位置・所要時間、3. 堤防に最も近いトイレと水飲み場・公衆電話の位置・所要時間。川を身近に効果的に体験しようとするときに、役立つ情報と思われます。

【5】JRRN 主催行事について（不定期開催）

Q14: JRRN 行事に参加したことありますか？



Q15: 行事講演録は役立ちますか？

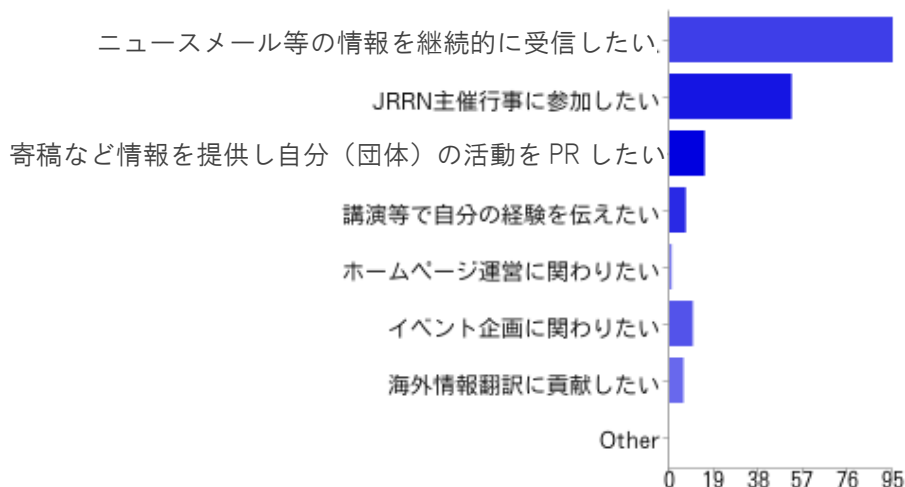


Q16: JRRN 主催行事へのご意見をお聞かせ下さい

- ・「河川文化を語る会」と同じように、毎月、もしくは隔月で講演会を実施するなど、定期的なイベントがあると知名度も高まると思います。講演会を実施するならば、会員が交代で講師をするようなことでも良いと思います。また、年に1回でも良いので、半日程度のテーマ性のあるシンポジウム（これも会員講師で実施出来ればなお良い）を開催し、河川再生という共通する目的を有する人々の「サロン」が開ければ良いと思います。
- ・ターゲットがコンサルタント等、専門家向けのイベントが多い印象。もっと市民や学生に向けた分かりやすい内容で、土曜日等週末や平日夜等、参加いただける時間に開催する等、工夫をしてはどうか。
- ・最近では通知から開催までの時間が短いので、ある程度の期間をもって知らせて欲しい。
- ・第8回自然再生セミナーの吉田邦伸企画専門官の講演録は12/10以降ずっと準備中となっております。会社にセミナー参加後の報告の義務がありますので、用意していただけるのであれば早めに追加していただきたいのですが、第7回のように講演録無しとならないことを願っております。
- ・参加できない方に対応できるようビデオに記録して公開できませんか？
- ・行事のアナウンスを前もって早くしていただければ、多くの方が調整可能では？
- ・地方でも参加できる行事、定期的な情報提供の場を提供していただきたい。（各地方に連絡運営組織を作って地域の会員を組織するとか各地の技術士会と連携するなどの取組みを行っていただけるとありがたい。
- ・海外の技術者と現場を歩きたい。
- ・東京中心のため、大阪在住のメンバーとしては、参加が困難なことが残念です。東京以外での開催も希望します。
- ・土日開催が少ないため出席しが難しい
- ・学識者の講演が多いような気がするが、現場の技術者や担当者からの生の声、現場間の意見交換の場があったら面白い。
- ・もうやられているかもしれませんが、行政、コンサルタント、NGOそれぞれの立場での活動報告会など、会員参加型の行事を開催されてはいかがでしょうか。そこでの苦労話が今後の取り組みに非常に参考になると思います。
- ・多自然川づくりや自然再生の現場の整備後の取り組み（地域市民によるモニタリング、保全活動、学校教育における活用等）、また、その評価方法について学べる機会があれば参加したいです。
- ・ほとんどの行事は関東圏のため、中部の人間としては参加の機会が乏しく残念に思っています。
- ・東京だけでなく、関西（大阪・神戸）でも開催して欲しい。
- ・台湾の河川に興味があります。名古屋でも開催していただきたい。

【6】JRRN 活動への参加、その他全般について

Q17: JRRN との関わり方に関する希望は？



Q18: JRRN への期待やご要望、その他ご意見をお聞かせ下さい

- ・ニューズレターやホームページにもっと会員の声や顔が入るようになると良いのではないのでしょうか。
- ・河川環境の再生・保全事例の充実・多自然サポートセンターとのより密な連携を図るべきと考えます。「うちの川にはこんな問題が...」→「JRRN でこんな事例が紹介されていて参考になりそう」→「うちの川に適應できるかサポートセンターに相談してみよう」といった感じです。
- ・大変と思いますが、今後ともよろしく願いいたします。
- ・流域再生の実務的な部分に興味があるのはもちろんですが、私の立場上、環境教育との結びつきについてさらなる情報を期待したいと思います。単に川で子どもを遊ばせました的なものではなく、環境教育としての裏付けがしっかりとした取り組みについてももう少し情報がほしいと感じています。
- ・時間の許す限り、各種の企画に参加したいです。環境再生医としての資質向上のためにも、JRRNとの連携を一層深めていきたい。
- ・JRRNの運営実態が良く分からない。
- ・最近、土木屋ばかりでなく、建築系の人にも水辺の活動などされている方がおられますが、地学系の人にも、水圏、地圏の純粋科学的な知見から、流域再生に取り組んでほしいものです。農林業へも広まると、再生運動も変わるかも知れません。
- ・好奇心はありますが、残念ながら主体的に参加する力はありません。
- ・ほ場整備で分断された川と里のつながりを回復させる取り組みをしていきたいと考えております。いつもその関連の情報をくださりまして誠にありがとうございます。今後ともよろしくおねがいたします。
- ・特に川の自然再生について、取り組んでいる団体、行政担当者間をつなぐ場を提供できれば幸い（各現場間が孤立している感じが否めない。悩みなど共有できる場があればと思うことが多い）。
- ・日本国内の川の写真を会員から集めて、グーグルマップのストリートビューのような、グーグルマップ等と連携した「リバービュー」（連続写真で無くても、点情報でOK）が出来ると楽しいと思います。
- ・一昨年、「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.1」の英語版をご送付いただき、マレーシア河川局（SarawakRiversBoard）の河川環境部門スタッフに進呈しました。とても興味深くご覧になっていました。河川だけを見るのではなく、流域全体を見る目が、近隣諸国の自然多き国々に浸透することが大切なのだと思います。今後ますます素晴らしい情報を期待しております。
- ・河川に関する情報収集の継続は大変ですが、毎週送信して頂いているニュースメールには全国の幅広い分野の情報がまとめられていて、とても役立っています。ぜひ今後も継続して頂きたいです。
- ・日本の河川環境技術の取り組みをアジア諸国の方々に広く知らせ、有用な技術や施策を各国に提供してゆくスタイルは非常に有用である。より広げるなら日本の民間企業の技術をアジアにも紹介し、現地政府・各機関へコネクトすることも検討されてはいかがですか？
- ・書籍・教材・論文等の掲載基準（或いは選定している方）を知りたい。
- ・できるだけイベントに参加したいのですが、遠距離のため難しい状況です。しかし、報告が掲載されるため、状況を確認でき有り難いです。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・今後とも台湾との交流を活発に行ってください。

2. 自由記述項目に関する Q&A

自由記述欄で頂きました主なご意見・ご質問に対する回答を以下に整理致します。

【1】 JRRN ニュースメール

(1) 配信頻度について

ご意見 週 1 回程度が望ましい (週 2 回希望 : 7 件、週 1 回希望 : 6 件)

回答 毎回のニュースメールで配信している新聞記事について、一部の記事リンクが数日で消去されるため、1 週間間隔となると約 2 割～3 割の記事が読めません。よって、配信情報の鮮度を優先し、引き続き週 2 回配信を継続しますが、同様の情報配信を繰り返すことをできるだけ避け、週 2 回配信でも新鮮味を感じ読んで頂ける工夫をまいります。

(2) 掲載情報 (テーマ) について

ご意見 官公庁の記者発表、専門雑誌特集、雑誌等で得られない情報、各種データベース、アジアと欧米の再生事例、市民団体の取組み、イベント、助成金等の情報も紹介して欲しい。

回答 ご要望のすべての内容が重要で、今後 JRRN ニュースメールを通じてこれら情報を配信することを目標としてまいります。一方、事務局単独での情報入手には限界があることから、JRRN 会員皆様からの情報提供をよろしくお願ひします。提供頂いた情報は JRRN ホームページ内の「最近の話題・ニュース」(<http://www.a-rr.net/jp/news/>) や「情報交換・交流」(<http://www.a-rr.net/jp/exchange/>) 欄に掲載し、情報量が充実した項目から随時ニュースメール内でも紹介させていただきます。

【2】 JRRN ニューズレター

(1) 掲載情報 (テーマ) について

ご意見 企画 (連載) もの、リレー形式での寄稿 (河川管理者・NPO・コンサルタント等)、海外に関する事例・河川水環境事情・川と人の関わり等の紹介を希望します。

回答 どれもニューズレターとして紹介したい話題・情報であり、JRRN 会員皆様から提供されたこれら情報がニューズレターを介し循環する仕掛けづくりを最優先に取り組みます。会員皆様からも様々な話題・情報の提供をお待ちしています。

【3】 JRRN ホームページ

(1) 掲載情報 (テーマ) について

ご意見 河川再生に関わる論文・ニュース・事例分析結果・自然再生協議会関連情報・川が身近になる情報・学習教材等々を紹介して欲しい。

回答 既にホームページ内にこれら情報を掲載する器は用意しておりますが、事務局の力不足で情報量と質の充実化が図られていないのが現状です。こうしたテーマへのニーズがあることを十分に理解した上で、会員皆様の情報提供の協力を得ながら、効率・効果的に欲しい情報が掲載されていく仕組みの構築を目指します。

(2) 機能の充実について

ご意見 会員相互交流機能 (例 BBS) を充実させて欲しい。また必要な情報へのアクセス性を高めて欲しい。

回答 現在のホームページを運用し 3 年超となりました。まずは掲載情報の蓄積と日々運用管理のコスト・労力低減を最優先に現サイトを設計した経緯がありますが、ツイッター等の新たな情報媒体が登場する中で、JRRN ホームページも再構築の時期を迎えています。機能性については更に皆様のご意見を伺いながら、平成 23 年度を目標に、会員相互交流性を高めた再構築を行えるよう努力してまいります。

【4】JRRN 行事開催

(1) 講演テーマについて

ご意見 現場の生の声（河川管理者・市民団体・コンサルタント等）を聞きたい。非専門家でも理解できる市民団体向けの講演を希望したい。再生後（整備後）の取り組みや評価の話を知りたい。海外技術者と歩きたい。等

回答 貴重なアイデアを頂くことができました。実際に活動する方々の知見を共有する企画となるよう、今後のJRRN 主催行事のあり方を再考し、新しい取組を随時試行していきたいと思っております。

(2) 開催手法（運営面）について

ご意見 定期行事にして欲しい。開催案内を早く教えて欲しい。会員を講師としたらどうか。地方でも開催して欲しい。週末に開催して欲しい。ビデオ公開して欲しい。等

回答 会員皆様の得意分野を紹介し共有しながらネットワーク全体の知見を高める仕掛けづくりを目指し、動画配信等、可能な情報技術も活用しながら、日本全国の皆様が参加可能な行事開催の工夫をしております。

【5】JRRN 活動への参加、その他全般

(1) JRRN 活動への参加について

ご意見 会員の顔や声が見える、届く工夫が欲しい。また既存関係団体や教育活動との連携を図るべき。

回答 個人会員数も 500 名近くとなり、様々な分野の方々がネットワークに参加頂いております。今後は、主催行事はもちろんのこと、ニューズレターやホームページ等を通じて、これまで以上に会員の顔が見える活動、会員皆様の主体的な行動の受け皿となれるよう、それぞれの企画を再考し、新たな取り組みを試行してまいります。

(2) 新企画等について

ご意見 Google などの情報技術を活用した斬新的な取組を期待したい。環境教育との連携を期待したい。日本の知見を海外にPRする機会を増やして欲しい。等

回答 頂いた一つ一つのご意見を分析し、できることは積極的に取り入れて参りたいと思っております。JRRN の今後の新たな企画については、改めてテーマを絞ったアンケートを行い、皆様の様々なアイデアを募集し、活動に反映させてまいります。

(3) JRRN 運営の透明性確保について

ご意見 JRRN の運営実態がよくわからない。

回答 2006 年 11 月に開催された「第 4 回世界水フォーラム」分科会場で日中韓政府関係者の主導により「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」が設立され、その日本窓口機関として JRRN が、(財) リバーフロント整備センターの公益事業の一環で設立されました。その後、国内外ネットワークの更なる拡大を目指し、2009 年 4 月からは (財) リバーフロント整備センターと (株) 建設技術研究所国土文化研究所による公益を目的とした共同研究活動として、両組織の人材・資金を基に JRRN 事務局を運営しています。

ご意見 ホームページ掲載情報（書籍等）の選定基準を知りたい。

回答 全国で活動する河川再生の担い手の方々に役立つ情報の発信を目標に、特に事務局として選別することなく、河川再生に関わるであろうあらゆる情報を紹介することに努めております。一方で、専門書籍や行事情報をはじめ、事務局中心の情報収集には限界があるため、現在ホームページ等で紹介している情報には偏りが生じております。河川再生分野の情報媒体としての社会的信頼を高めるためにも、JRRN 会員及び非会員の方々から提供頂いた情報を素材に、掲載情報の量・質の充実化に努めてまいります。

3. 今後の JRRN 活動への反映

今回のアンケート結果を踏まえ、平成 23 年度は以下の様に取り組んでまいります。

【1】 JRRN ニュースメール

- ✓ 引き続き、週二回配信（月・木）を目標に、JRRN 活動及び河川再生分野の最新情報源としての機能を目指します。
- ✓ 月曜配信メールと木曜配信メールで扱うテーマを変化させるなど、新鮮味を感じる工夫をします。
- ✓ 官公庁ニュースなど、可能な限り、関連分野の新規情報を追加していきます。
- ✓

【2】 JRRN ニューズレター

- ✓ 河川再生に関わるテーマ性を持たせた連載企画を検討し、試行していきます。
- ✓ JRRN 会員皆様が保有する知見や活動実績を容易に紹介できる仕掛けを検討し、試行していきます。

【3】 JRRN ホームページ

- ✓ 河川再生事例や関連書籍等の情報量の充実をこれまで以上に図り、河川再生情報源としての価値を高めます。
- ✓ 必要な情報へと容易にアクセスができ（ユーザーフレンドリー）、また会員との双方向のやり取りが可能なホームページに再構築します。

【4】 JRRN 行事開催

- ✓ テーマや講師を含め、会員のニーズに即した企画を更に検討し、類似団体主催行事との差別化を図った行事開催に努めます。特に講師を JRRN 会員に担って頂ける工夫をしていきます。
- ✓ 開催行事のネット中継や（期間限定）ビデオ映像公開等について可能性を検討し、東京以外の方々も、また平日に参加が難しい方々も行事に参加頂ける工夫をしていきます。

【5】 JRRN 活動への参加、その他全般

- ✓ 会員皆様からの情報が循環するための仕組み構築を目指し、その機会やツールを増やしていきます。
- ✓ 事務局体制や資金計画、また（個人情報を除く）会員構成等、可能な限り情報を公開することに努め、JRRN 活動の透明性を高めていきます。
- ✓ 様々なセクターの方々が参加頂けるよう、市民団体や行政関係者にも積極的に PR を実施致します。
- ✓ 引き続き、国内・海外それぞれに偏ることなく、有益な情報発信に努めます。

最後に

この度はアンケートにご協力頂きまして誠にありがとうございました。皆様からの貴重なご意見を今後の JRRN 活動に反映し、各地域に相応しい河川・流域再生の技術や仕組みづくりの発展に貢献してまいります。

2011 年 3 月 JRRN 事務局